

## 1 人口構造の分析

### ①人口推移と構造 ~今後も減少が続く人口構造~

- 町の人口は減少が続いている。2020年には18,555人となっている。総人口が減少する中で高齢化率は上昇を続け、2050年には46.3%になると推定される。高齢者数のピークは、65歳以上が2020年、75歳以上が2030年、85歳以上が2035年にピークを迎える。
- 2000年以降、生産年齢人口（15～64歳）、年少人口（0～14歳）とも3割以上減少した。
- 人口ピラミッドは逆三角形型であり、今後も自然減が見込まれる人口構造となっている。また、25～34歳の女性の人口は同年代の男性より少なくなっている。

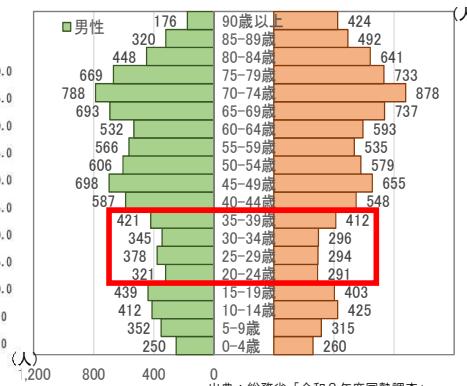
図表1-1 3区分年齢人口の推移



図表1-2 高齢者人口の推移・推計



図表1-3 辰野町の人口ピラミッド（2020年度）



### ②人口動態 ~自然減が拡大、社会減の幅は縮まるも先行きは不透明~

- 自然動態は、出生者数の減少と死亡者数の増加がそれぞれ加速しており、2024年には、200人/年以上の減少ペースとなっている。
- 社会動態は、転入数・転出数とも減少傾向であり、転出超過は縮小傾向にあり、コロナ禍の緩和した2024年には22人の転出超過となつた。
- 周辺の市町村と比較しても人口減少率は高い。

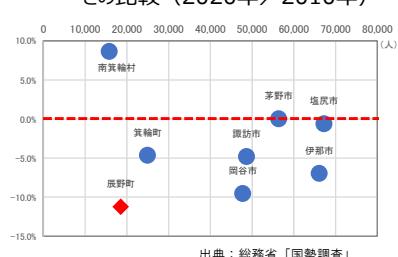
図表1-4 出生数と死亡数の推移



図表1-5 転入数と転出数の推移



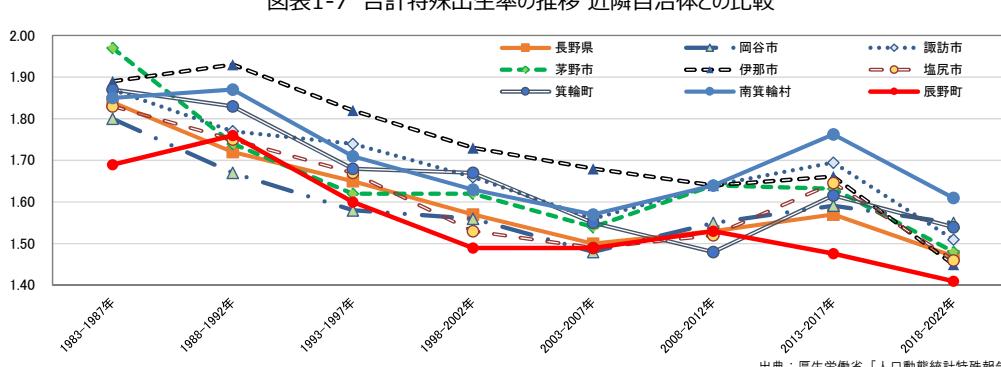
図表1-6 人口規模と人口増減の近隣自治体との比較（2020年／2010年）



### ③合計特殊出生率 ~近隣自治体中で最も低い

- 1992年以降、ほぼ一貫して減少が続いている。
- 1980年代から周辺自治体よりも合計特殊出生率は低い水準に留まっている。

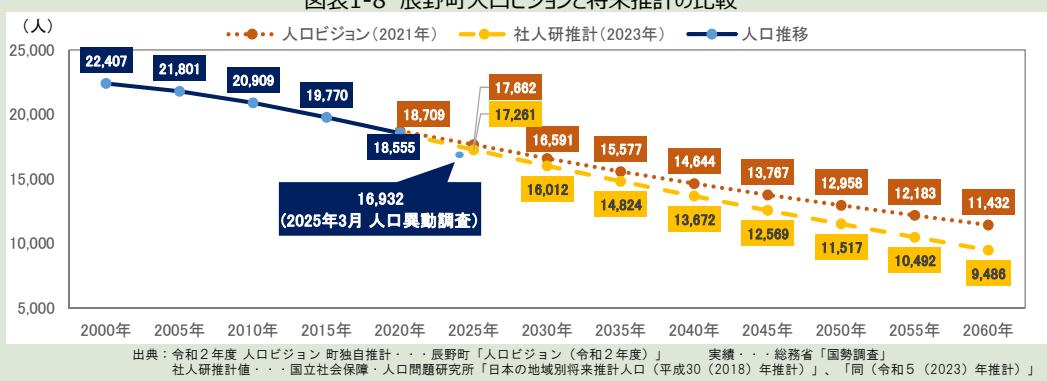
図表1-7 合計特殊出生率の推移 近隣自治体との比較



このままのペースで進むと目標人口との乖離がさらに進む

- 人口ビジョンで掲げた目標には、2025年3月時点での目標に届いていない。最新社人研推計（2023年）と目標人口には乖離があり、将来に渡って差が拡大する。

図表1-8 辰野町人口ビジョンと将来推計の比較



## 2 産業の分析

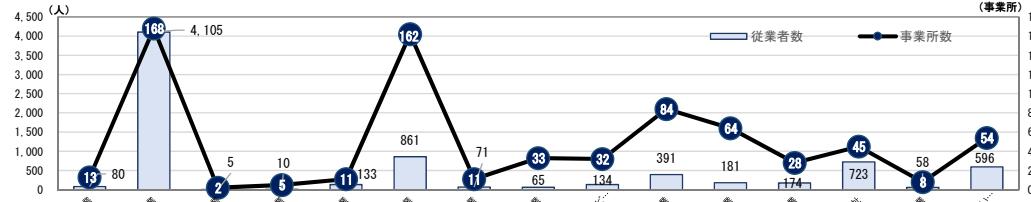
### 1-1 産業構造

※農業は農業法人のみのカウントのため参考値

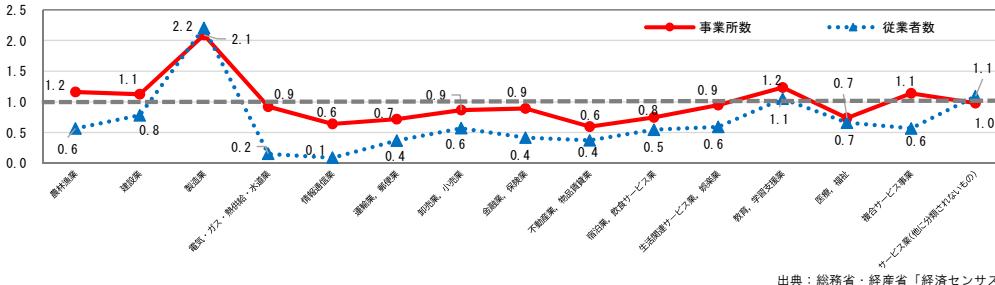
#### ～製造業が地域経済をけん引、小売・医療福祉が雇用を支える

- 町内での就業人口をみると、製造業が最多で、卸売業・小売業、医療・福祉が多くなっている。
- 事業所数では、製造業、卸売業・小売業、建設業が多い。
- 特化係数をみると、事業所数・従業者数ともに2を超えているのは製造業のみ。

図表2-1 産業別事業所数と従業者数（2021年）



図表2-2 事業所数と従業者数の対長野県との特化係数（2021年）



### 2-1 農業 ～小規模農業が多く、農家数が減少していく～

- 農業は米を中心、野菜・果実もある。
- 高齢化と後継者不足を背景に、総農家数は減少が続き、販売農家数は、直近20年間で3分の1以下に。
- 小規模な農家が多く、農家当たりの産出額は周辺自治体よりも低い水準に留まる。
- 農業産出額は、コロナ禍により2021年に減少したものの、その後、回復した。

図表2-3 農家数の推移



図表2-4 農業産出額（比較）



図表2-5 農業産出額の推移

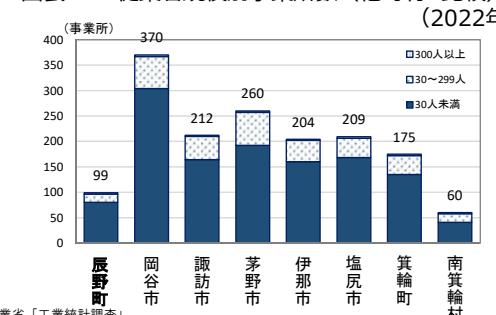
### 2-2 工業 ～小規模事業所の比率が高く、人材確保が難しい状況か～

- 工業の事業所数は2020年まで減少していましたが、2022年には99事業所に増加した。従業者数は減少し、2022年（令和4年）は3,059人。
- 30人未満の事業所数の比率が近隣自治体よりも高く、一事業所当たりの製造品出荷額等は、工場の集積がある近隣自治体よりも低い。

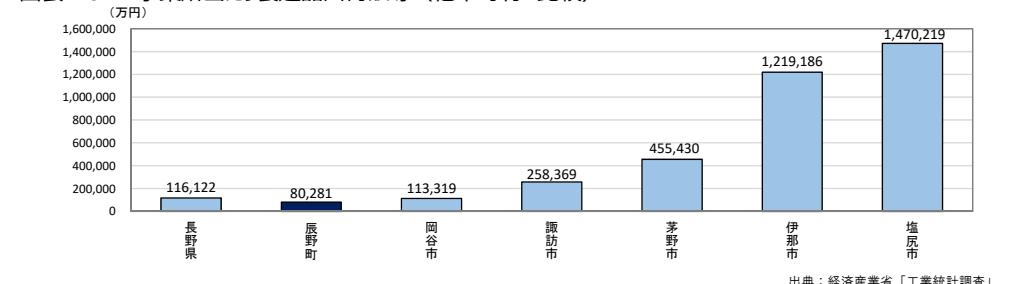
図表2-6 事業所数・従業者数の推移



図表2-7 従業者規模別事業所数（他町村 比較）



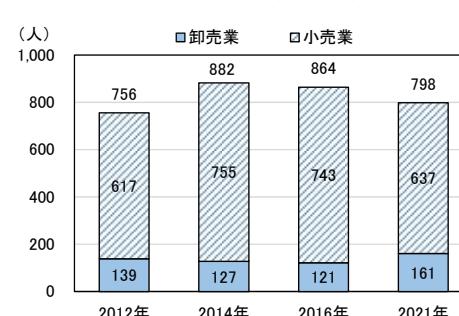
図表2-8 一事業所当たり製造品出荷額等（他市町村 比較）



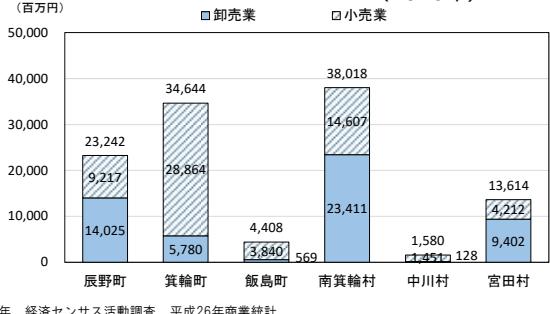
### 2-3 商業 ～商業は横ばいで推移。域内消費を確保している～

- 卸売・小売業の従業者数は、小売業は2014年以降減少。卸売業は直近増加傾向。
- 年間商品販売額を他市町村と比較すると、本町人口規模の割に販売額は大きい。

図表2-9 卸売・小売業別従業者数の推移



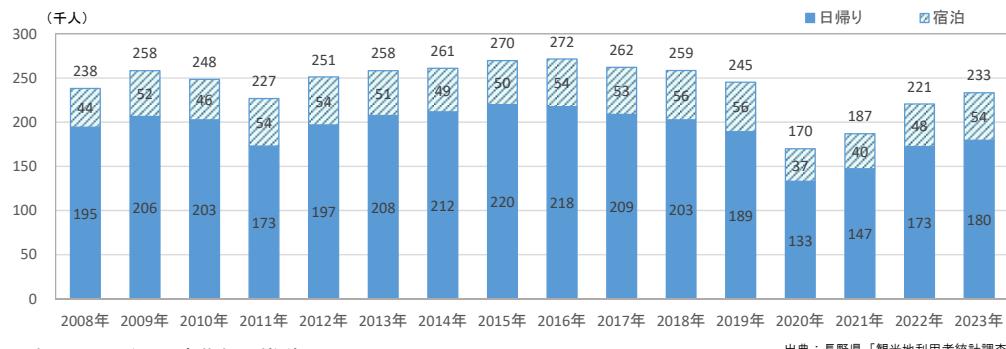
図表2-10 年間商品販売額（他市町村 比較）  
(2016年)



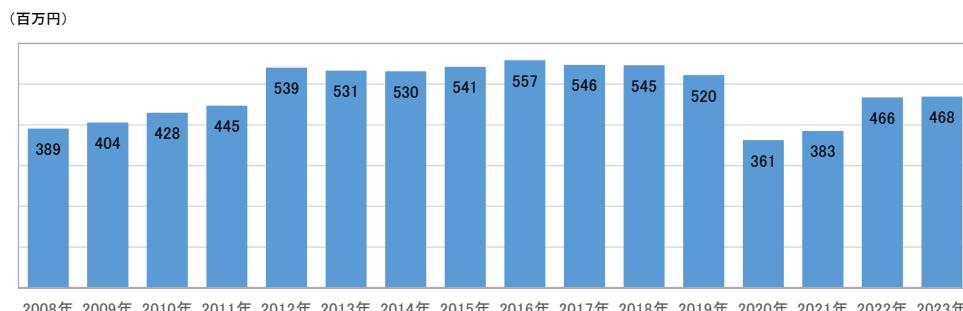
## ②-4 観光～コロナ禍からほぼ回復。経済効果は小さい状況が続く～

- 観光入込客数と観光消費額は、コロナ禍によって2020年に大きく減少しましたが、回復傾向にある。
- 本町を訪れる観光客の8割程度は日帰りであり、入込1人当たりの消費額は2,000円程度と低い水準に留まっている。
- 測定されている入込客数が多いのは、荒神山公園で、近年は、中央アルプス横川峡、荒神山公園が近年では拮抗している。

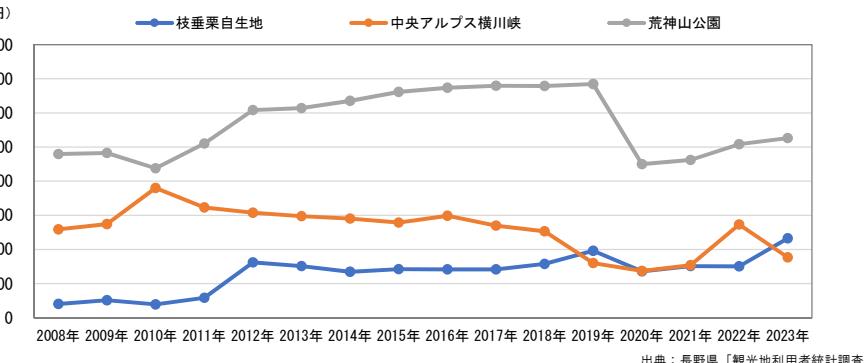
図表2-11 観光入込客数の推移



図表2-12 観光消費額の推移



図表2-13 観光消費額の推移



## 3 行財政の分析

### ～町税は横ばいだが、財政余力は低下傾向～

- 町税収入は、概ね23～25億円規模で推移していたが、2023年に法人税の増加により28億円に急増した。
- 普通会計の歳入・歳出は、コロナ禍によって2020年に大きく減少したが、回復傾向にある。
- 財政力指数は、過去改善されてきたが2020年をピークに悪化し、2023年には0.45となっている。
- 経常収支比率は、年度により上下しているが直近3年度で10%ほど上昇している。
- 実質公債費比率は、2008年度に8.9%だったが、2021年から改善傾向に向かい2023年度には6.7%、類似団体平均と比較しても良好である。
- 基金積立金は、2021年から増加が続き、2023年度には39.5億になってる。特にその他特定目的基金が増加傾向にある。

図表3-1 町税収入額の推移



図表3-2 普通会計の歳入・歳出の推移



図表3-3 財政力指数の推移



図表3-4 経常収支比率の推移



図表3-5 実質公債費比率の推移



図表3-6 基金残高の推移



## 4 町民アンケートの分析

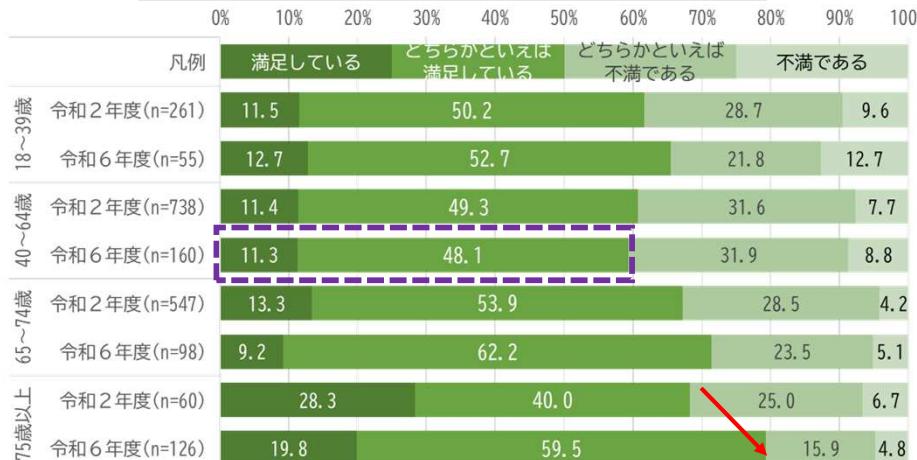
(2025年2月に実施した町民意識調査での今後のまちづくりに対する意向)

### ① 辰野町の暮らしについての意見 ~65~74歳はややネガティブな傾向。愛着は全般的に低下。75歳以上は高い誇りを持つ。

#### (1) 暮らしの満足度・居住継続意向

- 暮らしに満足している割合は、75歳以上が最も高く、40~64歳が最も低くなっている。前回調査と比較すると、75歳以上で満足している割合が高くなった。
- 居住継続意向について、年齢が上がるほどに居住継続意向が高くなる。前回調査と比較すると、18~64歳は居住継続意向を持つ割合が低くなかった。

図表4-1-1 辰野町の暮らしに満足しているか（経年比較・年代別）



図表4-1-2 辰野町の居住継続意向（経年比較・年代別）



#### (2) 町への愛着や誇り

- 町に愛着を感じている割合は、年齢が上がるにつれやや上がる傾向がある。前回調査と比較すると、全ての世代で愛着を感じる割合が低くなかった。特に65~74歳は「とても感じている」割合は10ポイント近く低下した。
- 町に住んでいることを誇っている割合は、75歳以上が他世代と比べ高くなっている。一方で、18~39歳は「まったく誇れない」割合が他年代と比べ高くなっている。前回調査と比較すると、65~74歳は誇りを持っている割合が低くなかった。

図表4-1-3 辰野町への愛着（経年比較・年代別）



図表4-1-4 辰野町に住んでいることの誇り（経年比較・年代別）



# ① 辰野町の暮らしについての意見 ~生活満足度は愛着・誇り・ゆとりとの相関性がみられる。

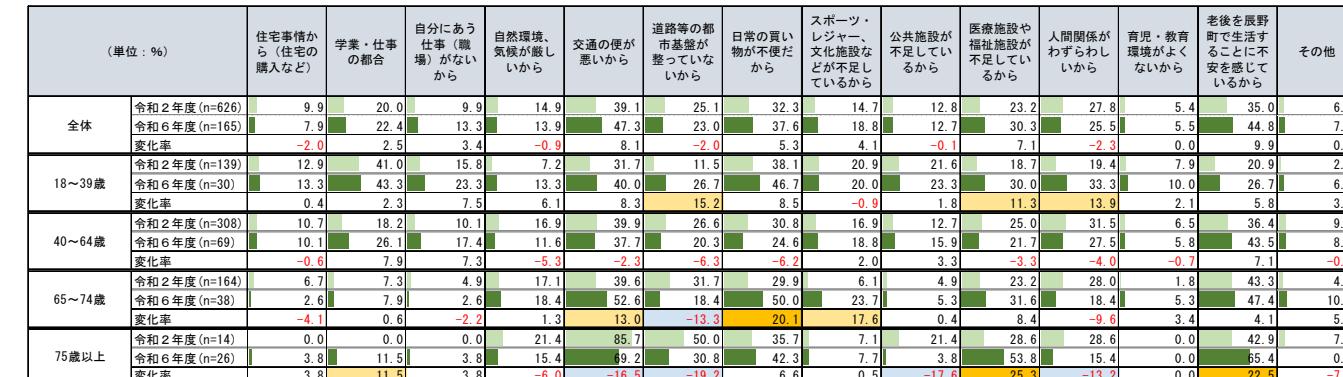
## (3) 転出を検討した経験

- 辰野町からの転出を検討したことがある割合は、年代が下がるほど高くなる傾向がある。前回調査と比較すると、65~74歳で検討したことがある割合が高くなっている。
- 検討した理由としては「老後の不安」「交通の便が悪い」「買い物が不便」「医療施設や福祉施設の不足」等が高くなっている。転出を検討した経験が増加した65~74歳においては、「買い物が不便」「交通の便が悪い」等が主な理由となっている。「老後の不安」「医療施設や福祉施設の不足」については、75歳以上で20ポイント以上増加した。

図表4-1-5 転出を検討した経験（経年比較・年代別）



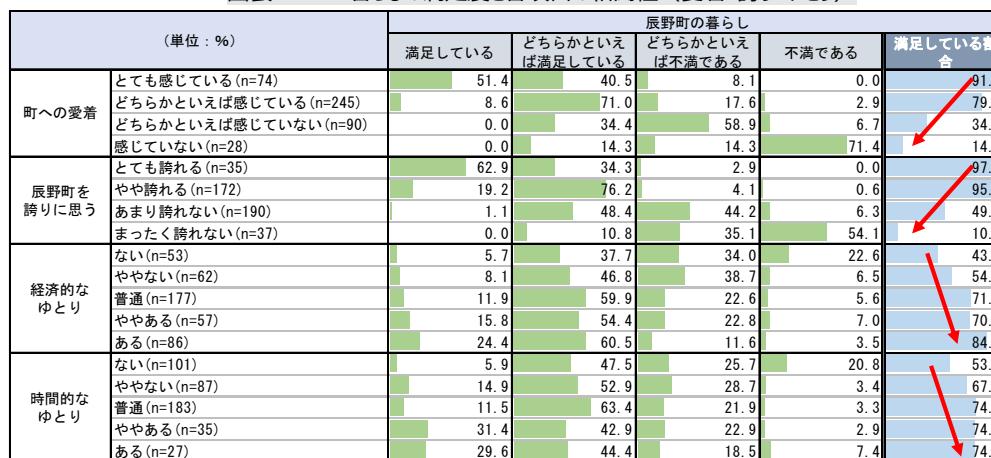
図表4-1-6 転出を検討した理由（経年比較・年代別）



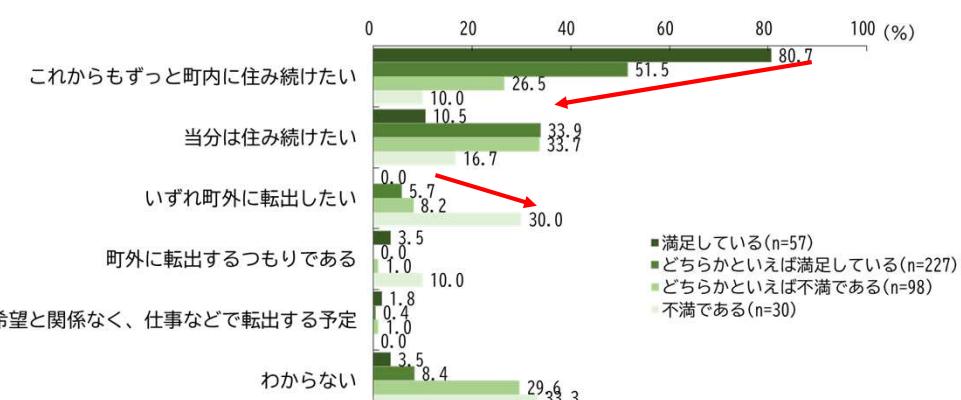
## (4) 暮らしの満足度と愛着・誇り・ゆとり・居住継続意向の相関性

- 暮らしの満足度が高い層は、町への愛着・町への誇りを感じる割合が高くなる傾向がみられる。
- 暮らしの満足度が高い層は、経済的・時間的なゆとりを持つ傾向がみられる。
- 暮らしの満足度が高い層は、居住継続意向が強くなる傾向がみられる。

図表4-1-7 暮らしの満足度と各項目の相関性（愛着・誇り・ゆとり）

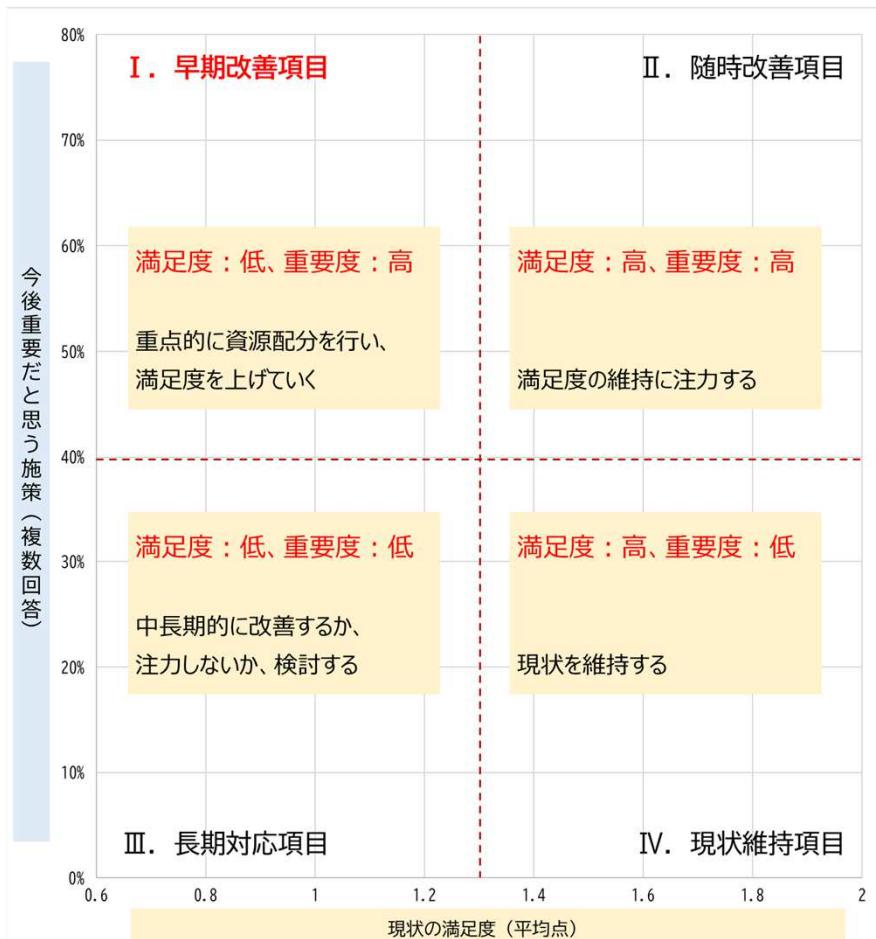


図表4-1-8 暮らしの満足度と居住継続意向の相関性



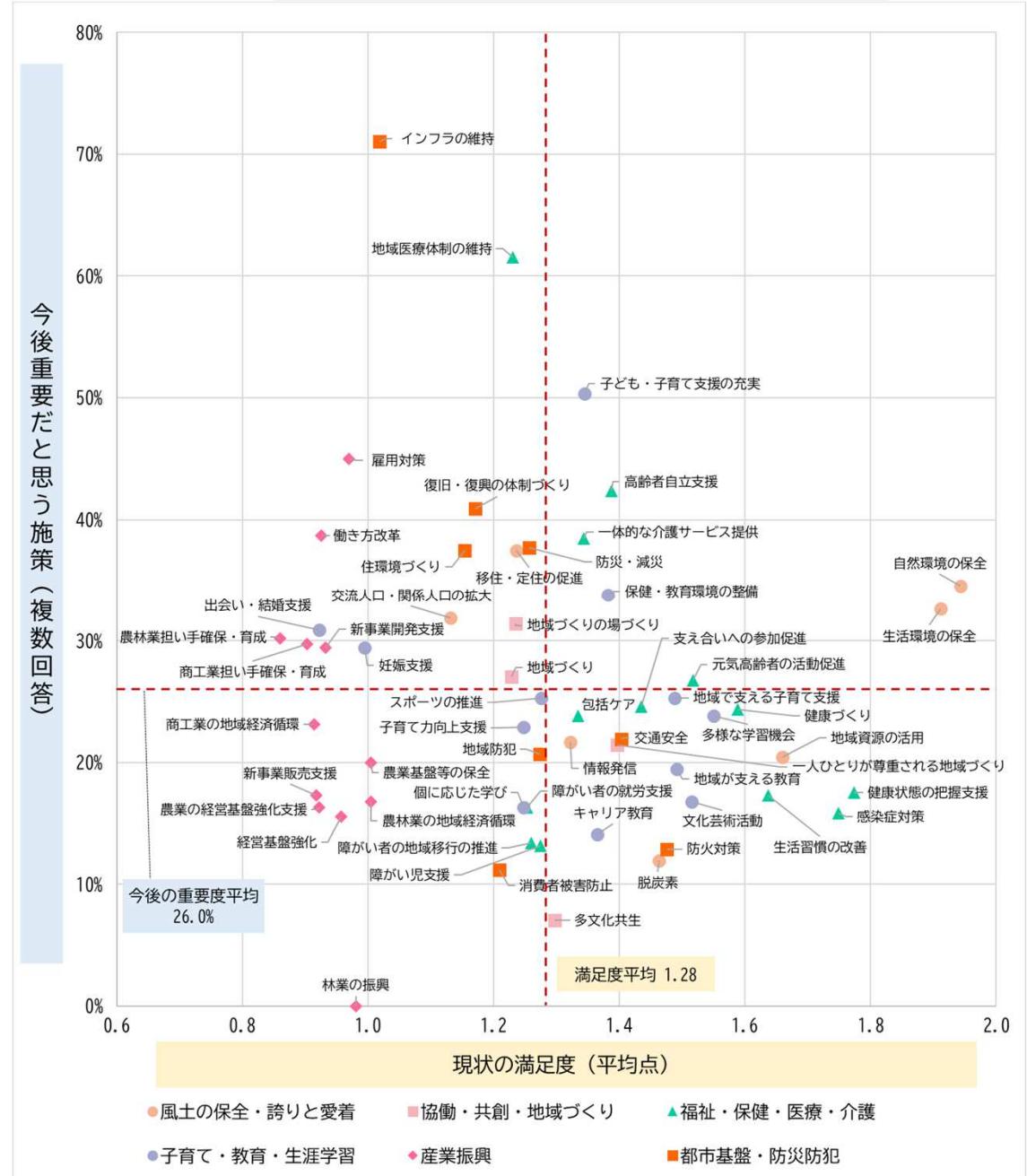
## ② 現状の満足度・今後の重要度

図表4-2-1 CS項目 表の見方



現状の満足度は施策（事業分類）毎に4件法で確認し、平均点を横軸とした。（満足：3点、やや満足：2点、やや不満足：1点、不満足：0点）

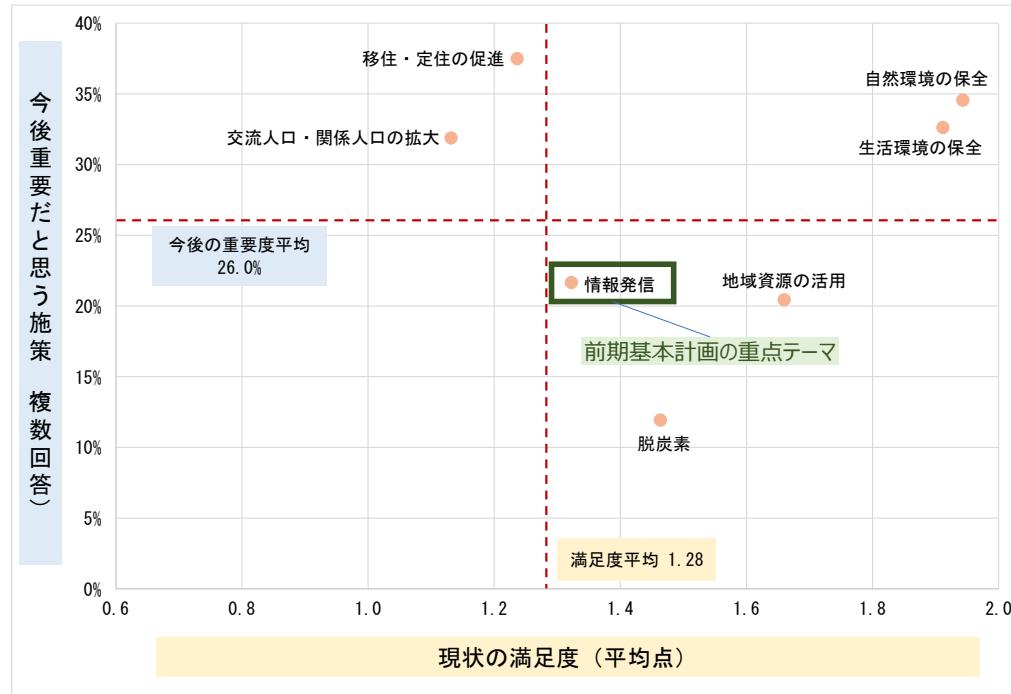
今後の重要度は、基本目標毎に施策（事業分類）から注力すべき施策を3~4個抽出し、有効回答に占める回答割合を縦軸とした。



## ② 現状の満足度・今後の重要度

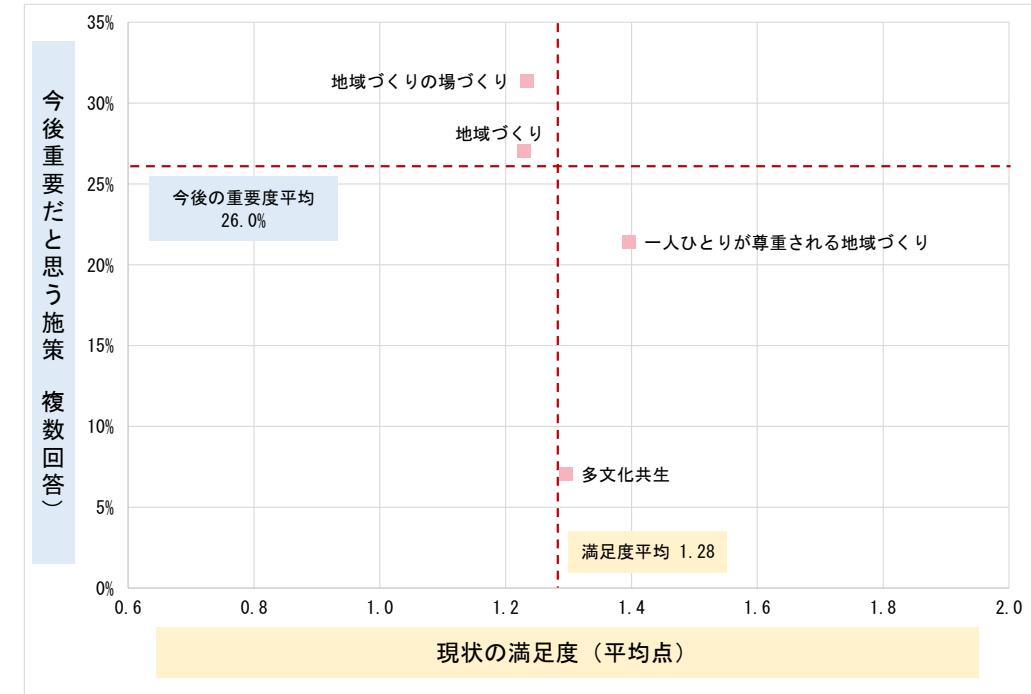
### 基本目標1 ホタルが飛び交う自然豊かなまち (風土の保全・誇りと愛着)

図表4-2-3 基本目標1の現在の満足度と今後の重要度の分布



### 基本目標2 みんなが活躍できるまち (協働・共創・地域づくり)

図表4-2-4 基本目標2の現在の満足度と今後の重要度の分布



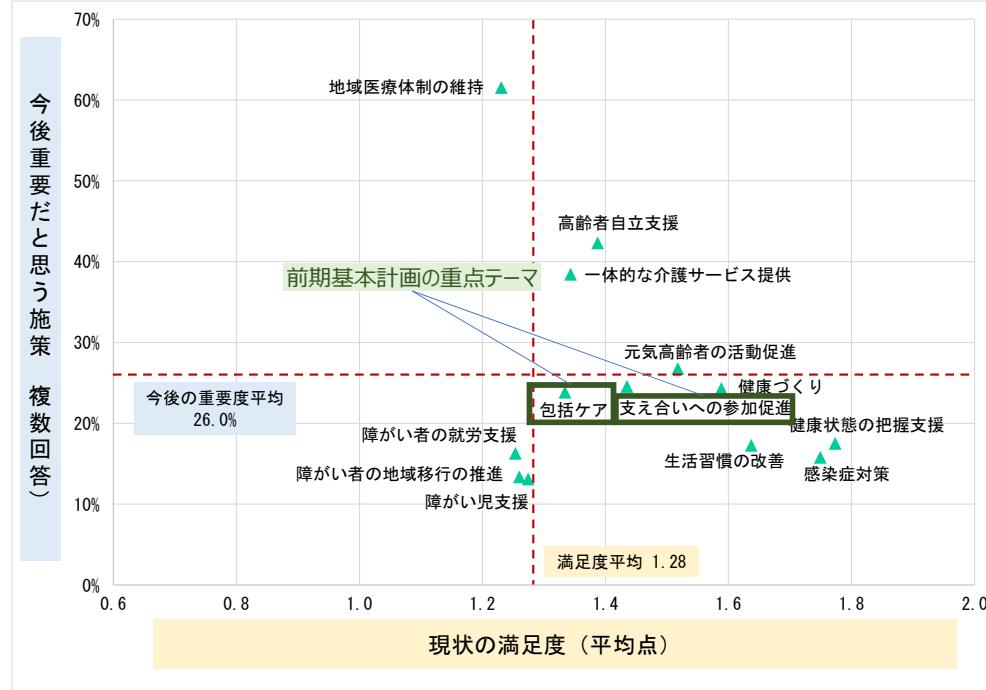
- 早期改善項目
  - ・移住・定住の促進
  - ・交流人口・関係人口の拡大
- 自然環境保全・生活環境保全は満足度・重要度がともに高い。
- 前期基本計画の重点テーマとなっている「町民とまちがお互いの想いを共有するための場づくり」「地域づくり活動の担い手同士を繋ぐコーディネート事業」を含む情報発信は現状維持項目となっている。

- 早期改善項目
  - ・地域づくり
  - ・地域づくりの場づくり
- 一人ひとりが尊重される地域づくりは現状維持項目となっている。
- 多文化共生は現状維持項目だが、重要度は非常に低い。

## ② 現状の満足度・今後の重要度

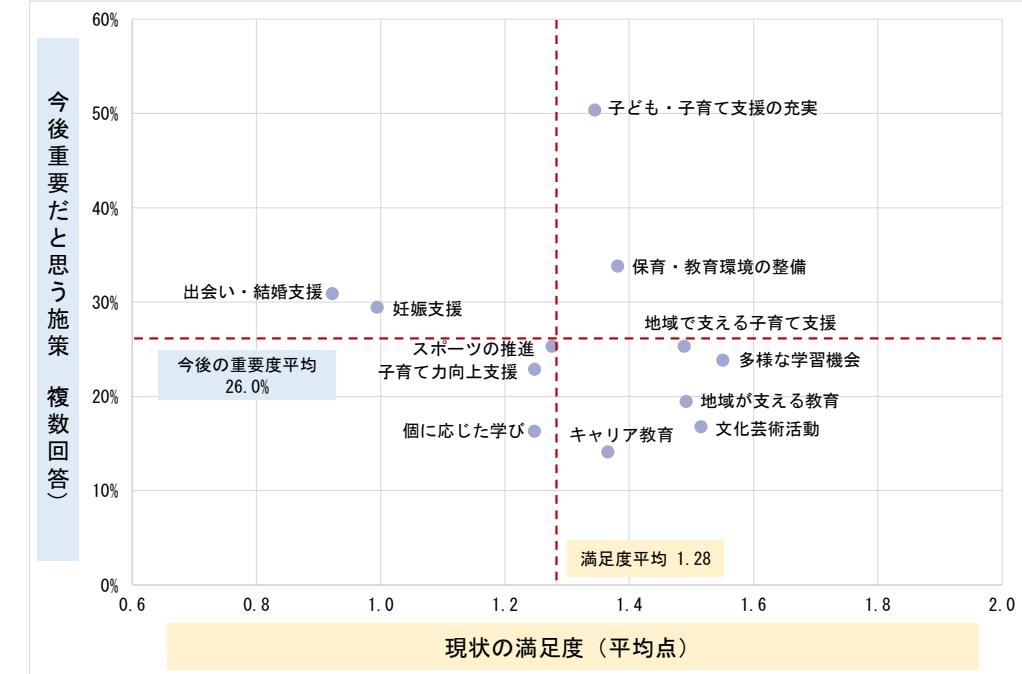
### 基本目標3 いつまでの健やかに暮らし続けられるまち (福祉・保健・医療・介護)

図表4-2-5 基本目標3の現在の満足度と今後の重要度の分布



### 基本目標4 次代を担う人材が育つまち (子育て・教育・生涯学習)

図表4-2-6 基本目標4の現在の満足度と今後の重要度の分布



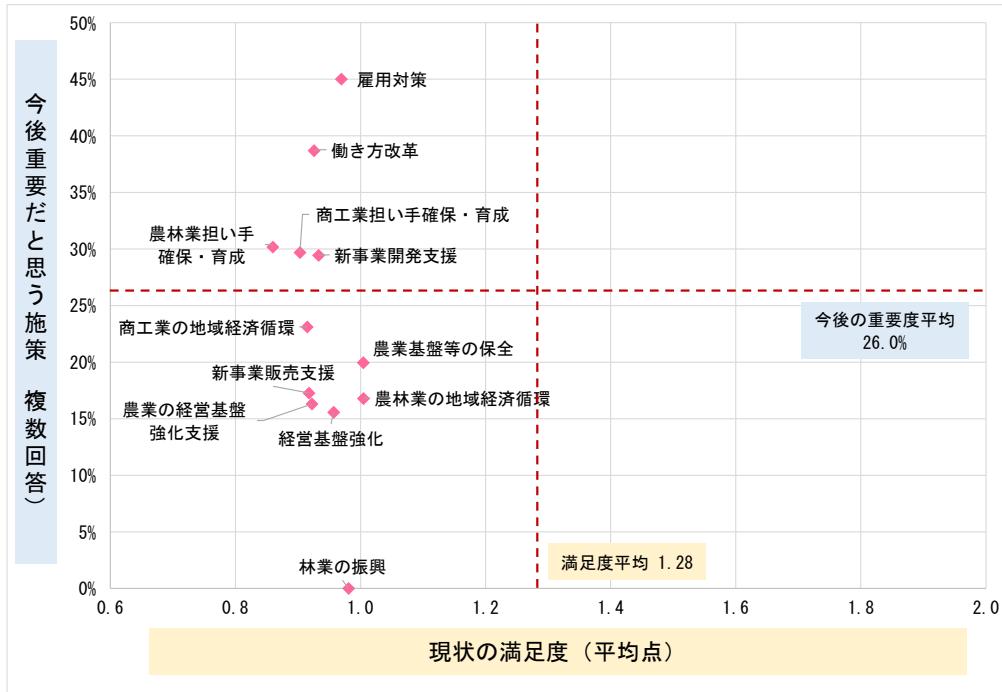
- 早期改善項目
  - ・ 地域医療体制の維持
- 高齢者自立支援、一体的な介護サービス提供、元気高齢者の活動促進は満足度・重要度がともに高い。
- 前期基本計画の重点テーマとなっている「助け合い・支え合いの地域づくり」「ボランティア等の支援」「地域福祉のネットワークづくりと活動への支援」に該当する支え合いへの参加促進、地域包括ケアシステムの構築は現状維持項目となっている。

- 早期改善項目
  - ・ 出会い・結婚支援
  - ・ 妊娠支援
- 子ども・子育て支援、保育・教育環境の整備は満足度・重要度がともに高い。
- 子育て力向上支援、個に応じた学び、スポーツの推進は、重要度・満足度ともに低く、町民の関心が低いと考えられる。時代の潮流とは意識が合っていない可能性がある。

## ② 現状の満足度・今後の重要度

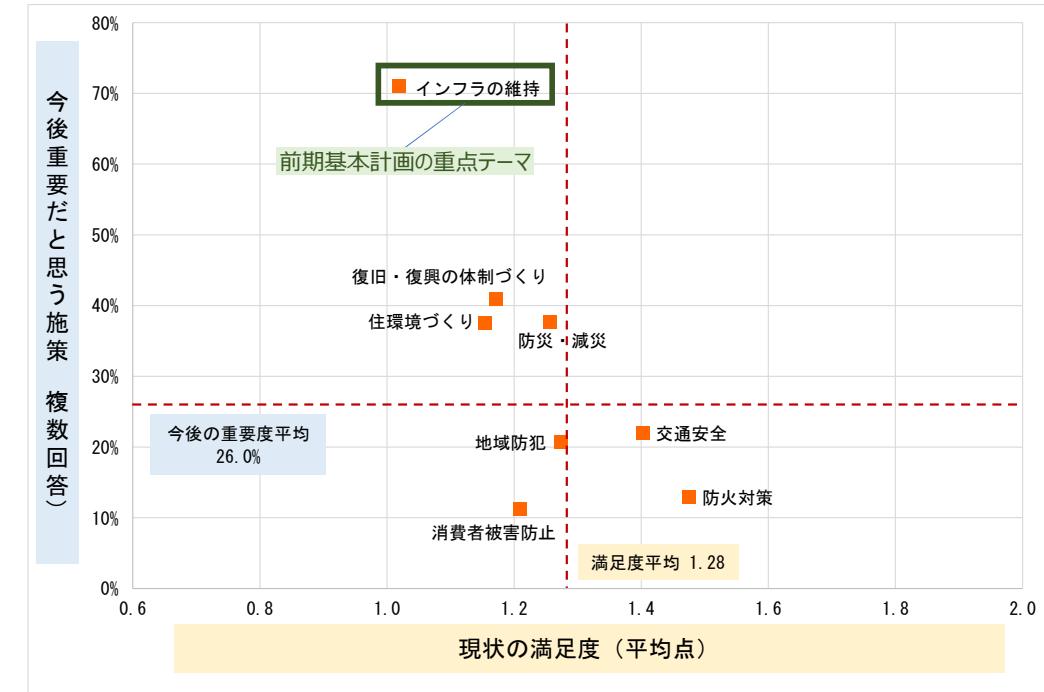
### 基本目標5 活力と魅力ある仕事のあるまち (産業振興)

図表4-2-7 基本目標5の現在の満足度と今後の重要度の分布



### 基本目標6 安全で快適に暮らし続けられるまち (都市基盤・防災防犯)

図表4-2-8 基本目標6の現在の満足度と今後の重要度の分布



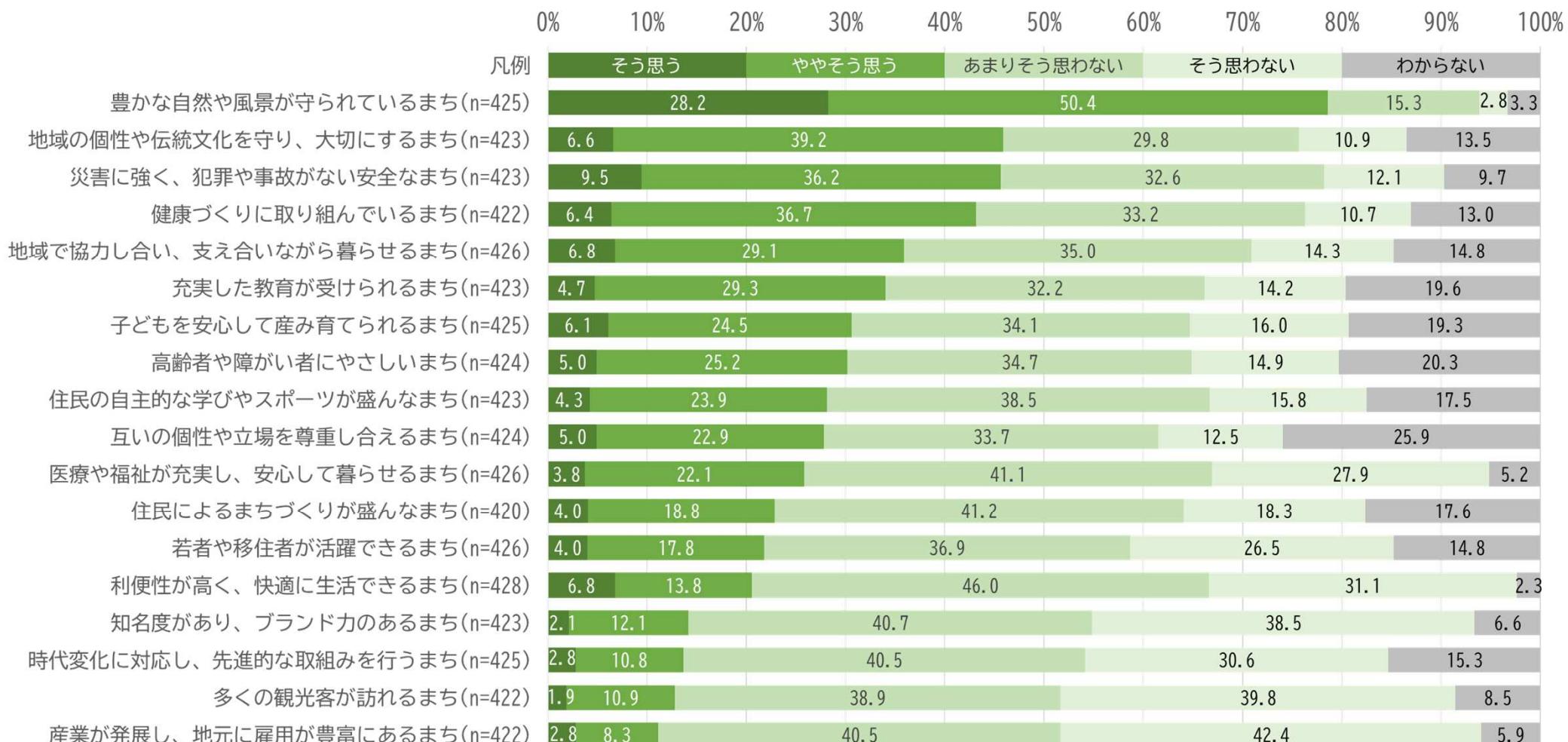
- 早期改善項目
  - ・雇用対策
  - ・農林業の担い手確保・育成
  - ・商工業の担い手確保・育成
  - ・働き方改革
  - ・新事業の開発支援（事業開拓、新技術開発、6次産業化支援）
- 農業者への支援、林業振興、地域経済循環は満足度が低い。
- 産業振興分野は全般的に満足度が低いと言える。

- 早期改善項目
  - ・インフラの維持  
(前期基本計画の重点テーマ「道路・橋梁の適正な維持・管理・改良」)
    - ・防災・減災
    - ・災害が発生した際の復旧・復興の体制づくり
    - ・魅力ある住環境づくり（公園整備、住宅・宅地確保、景観保全）
- 交通安全、防火対策は現状維持項目となっている。
- 消費者被害防止は、満足度が低いが、重要度も低くなっている。

### ③ 辰野町の地域イメージ ~自然・防災防犯・伝統文化はイメージが強く、産業・観光・ブランド力・先進的取り組みは弱い

- 辰野町の地域イメージについて、「豊かな自然や風景が守られているまち」「地域の個性や伝統文化を守り、大切にするまち」「災害に強く、犯罪や事故がない安全なまち」といった項目は、肯定的なイメージを持つ割合が比較的高い。
- 「産業が発展し、地元に雇用が豊富にあるまち」「多くの観光客が訪れるまち」「時代変化に対応し、先進的な取り組みを行うまち」「知名度があり、ブランド力のあるまち」といった項目は、肯定的に思う割合が比較的低い。
- 「互いの個性や立場を尊重し合えるまち」「高齢者や障がい者にやさしいまち」といった項目は、「わからない」とする割合が比較的高い。

図表4-3-1 辰野町の地域イメージと重点テーマとの紐付き



## 5まとめ：前期基本計画期間の総括と後期に向けた検討課題

### 現状：人口減少基調のなかで地域の活力と安心を維持していくことが求められる

#### ● 人口減少は加速、多死社会へ

前期計画期間中にも、人口減少の速度は、さらに加速した。死亡が出生を大きく上回る（多死社会化）構造は変えられないため、移住施策の強化により社会増減を改善することが最も重要な政策となる。死亡者数の増加に伴う、空き家・空き地、廃業などの空白の発生も課題となる。

#### ● 産業・経済の規模は維持 今後は人手不足による産業縮小が危惧される

人口減少により生産年齢人口が減少する中でも産業規模は維持しているが、今後、農業の担い手がさらに減少し、地域の基盤産業である製造業の担い手も減少が予測される中で、生産力を落とさないための省人化、効率化、規模拡大等の支援策が求められる。アンケートでも担い手確保の重要度は高い。

#### ● 町で暮らす上の安心の確保

アンケートの早期改善項目に「地域医療の維持」があがっていた。若い世代では「妊娠・出産」体制・支援策の充実、高齢世代では専門的・日常的な「医療体制」の確保が求められている。一方、住民による支え合いや包括ケア体制については、前期の重点項目であったが、住民側の活動の機運は高まっているとは言えない。

#### 課題① 人口減少「抑制」+「適応」の両面での対策が必要

- 人口ビジョンで掲げた目標と実人口とはすでに乖離しており、今後もさらに乖離が大きくなる恐れがある。しかし、第6次総合計画は折り返し時点であり、当初の目標を安易に下げるのではなく、当初の目標達成を目指して、より強力に移住政策を進めるべきである。
- 一方、長野県は、人口が2050年にピーク時の7割に、2100年にはさらにその半分になる見通しであることから人口減少を前提とした社会の構築を提起している。（2024/9：人口減少対策を進めるための戦略骨子案）
- 辰野町においても、「人口減少緩和対策」と「人口減少適応対策」の2つの視点を持って政策を重点化していくことが必要である

#### 課題② 人手不足による産業経済等の縮小回避策が必要

- 農業の担い手の平均年齢が70歳代となり、後継者も少ないとから、意欲的な担い手・新規就農者等への集約化を進めるとともに生産性を高める支援が必要
- 商工業においても人手不足が顕在化しており、省人化、効率化、無人化等の対応、外国人の活用等の対策が重要になる
- 新たな担い手を確保する意味でも、移住促進とそこにつなげる関係人口の増加策は重要である。
- 政府の地方創生2.0が始まるため、DXを進めることや地場産業を活性化することに注力し、「仕事をつくることで人のながれをつくる」ことが求められる

#### 課題③ 全世代が安心して暮らせる環境づくりが必要

- 町の高齢化率は上昇が続き、人口のボリュームゾーンである団塊の世代が介護が必要な時期を迎えるため、医療・介護等の体制の確保は引き続き、重要な町の役割となる。
- 一方、若年女性人口が少ないとから女性が活躍できる地域を重要であり、女性が働きやすい就業環境、子どもを安心して生み育てられる体制や支援策の充実が求められる。
- 前期の重点であった、地域での支え合いについては、コロナ禍もあり停滞したが、防災の取組みなどでは成果があがりはじめている。地区単位の地域づくりの取組みを以下に維持・活性化できるかは引き続き、重要な課題と言える。